

令和4年度前期 上田市立北小学校 学校自己評価シート 評定=A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：全くできていない

学校教育目標 「花とみどりと笑顔の学校」		総合評価		
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造		<p>学校長の『笑顔』を広げるためにあいさつを大切にしよう」との年度当初からの継続的投げかけにより、あいさつが響き渡る学校となっている。また、コロナ禍ではあったが、職場体験学習や地域講師によるクラブ活、フラワーロード花壇の活動、生活科や総合的な学習の時間での協働活動等、北小応援団や地域の方との活動も昨年度よりも積極的に行うことができた。</p> <p>反面、これらの事や児童の姿について、保護者や地域の方に十分に伝えることが出来なかったことが課題として残った。学校行事、学校生活での児童の様子について、保護者および地域の方に積極的に発信すること、学校を開放し、保護者や地域の方に来校していただくことを来年度に向けて考えていきたい。</p>		
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」</p> <p>・教師は、子どもが他者とつながることや子ども同士がかかわり合うことをサポートし、人に対する愛着心を育むことができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつが広がり、また、児童会活動、地域の方と関わる活動を通して、多くの人とのふれあい、つながりをもつことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの響く学校づくりを引き続き児童、保護者、地域の方にも働きかけていく。 ・学校運営委員会と連携し、コミュニティースクールあり方について熟議し、児童も大人も学べる学校をめざしていく。
<p>よく学び…「じっくり考えよう」</p> <p>・教師は、子どもの『問い』を真ん中にすえた授業を行い、子どものやる気を引き出し、子どもたちの主体的に追究していく力を育てることができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・児童自ら「問い」をもち、主体的に学ぶ授業づくりについて職員は研修を重ねた。ICTを活用したり、児童が授業を進めたりする中で主体的に学ぶ姿が見られた。 ・反面、アンケート結果から、授業を楽しめない児童の姿があり不十分さも感じられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「問いをもち児童が自ら考えたい授業」に向けて、研修会や研究会をもち、授業改善・授業づくりをおこなっていく。 ・生活科、総合的な学習の時間を中心に、児童が主体的に学びに向かう授業づくりをさらにおこなっていく。
<p>よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」</p> <p>・教師は、遊びの時間を大切に働きかけをし、遊びを通して子どもたちの意欲や主体的に活動する力を育むことができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの時間が十分にあり、寒い冬でも汗びっしょりになり、身体を動かして思い切り遊ぶ児童の姿がある。また、遊びを計画して仲間を集める自主的な姿も見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中にある児童の意欲や主体性を、教師は児童とともに遊ぶ中で見取っていく。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	よくふれ合い	あいつの響く学校づくり	「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「友だちや先生、地域の方にあいさつをしている」について「よくできている」の回答が児童・保護者・教職員ともに90%を上回った ・まずは教職員自らが元気に児童とあいさつを交わし、あいさつ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、あいさつすることの心地よさを味わえるよう、教職員自ら、元気なあいさつをおこなっていく。 ・「あいさつ」は北小学校児童の強味である自信がもてるよう、校長講話や児童会の活動を通し

学校教育

		<ul style="list-style-type: none"> に対する意識を高めた。 代表委員児童が毎朝昇降口であいさつ運動をおこない、児童会でもあいさつの響く学校づくりを呼びかけた。 校外学習の場でも、自然な姿であいさつをすることができお褒めの言葉をいただくことがあった。 		<p>て働きかけて行く。</p>
	<p>かかわり合う場の確保</p> <p>北小応援団と連携した活動・放課後学習を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師によるクラブ活動や地域の方とのフラワーロードの花植え、職場体験学習、生活科や総合的な学習の時間の協働活動、学習の見守りをおこなった。 北小応援団主催の「大人の学び」の活動として、救命講習会、消しゴムはんこ講座、剪定講座をおこなった。大人も学びや人とのつながりを楽しむ姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったが、地域の方とつながり、ふれ合う学習の機会を多くもつことができた。 さらに多くの学年、学級で、児童と地域の方との協働活動・学習の場がもてるよう、年度当初に年間の計画を立てて、どの時期にどの教科で地域の方とのかかわりをもつのか見通しをもって臨むようにする。 持続可能なコミュニティースクールのあり方について、学校応援団の方と引き続き熟議を重ねていく。 北小応援団の活動の呼びかけを保護者にも積極的におこなっていく。
	<p>学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証</p> <p>学年内やペア学級で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童会では、2回の「遊びの広場」を行い全校児童がペア学級でと遊びを楽しんだ。 学年体育やレク等の場を設け、学年内の友だちと自然な形で交流することもできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「遊びの広場」は引き続き、児童会主体で計画を立て内容を工夫していく。さらに、日々の生活中でも学年、学級を超えた交流をおこなっていく。
よく学び	<p>子どもたちの『問い』を真ん中にすえた授業の創造</p> <p>以下5点を大切に授業を行うようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの「願い」や「疑問」をもとにした学習問題を設定する 追究の見通しから課題を明確にできる場を設定する 追究時間の保障と個々のつまずきに応じた支援をする 追究結果を交流する場の設定と学習問題と照らしたまとめをする 自他の高まりを認め合う全体評価の場を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 教育事務所の主事を招き、職員研修、研究授業、研究会をおこない授業づくりに向けた実践研究を行ってきた。 I C Tを利用したり、友達同士で問題を追究したり、高学年では、自己の問いを解決する学習を個々でおこなう姿もみられた。 児童アンケートで「授業は楽しい」「授業は自分で考えている」と答えた子が約85%おり、自ら考える喜びを味わう学びとな 	B	<ul style="list-style-type: none"> どの子も自己の「問い」をもち「わかった」「できた」喜びを味わえる授業づくりを考えて行く。 児童の意識の流れから「問い」が生まれ、それを中心据えて授業を展開していく授業づくりについて、互いの授業を見合ったり、研修会に参加したりし、引き続き研修を重ねていく。

よく遊び	生活科・総合的な学習の時間の充実	子どもの「願い」をもとに活動を構想し、子どもたちがわくわくする探求的な学びを支援している。	<p>っている。しかし約15%の子が授業が楽しめない状態にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報交換の場を設定したり、授業をみあったりしたことにより、後期は、児童の願いにもとづく活動が数多く展開された。(地域たんけん、ものづくり、北小商店街、中庭づくり、サントミュージゼとの交流、栽培活動、飼育活動、販売活動、等) 生活科や総合的な学習の時間の学びを楽しむことは出来たが、「探究的な学び」までには至らなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全学級で年度当初から、活動が展開できるように、年度当初に計画を立て、見通しをもって児童の活動を支えて行くようにする。 また、おこなった学習について、他学年、保護者や 地域の方に発信していくこともおこなっていきたい。 「探求的な学び」となる授業づくりについて重点研究として取り上げ、研修を重ねていく。
	「ハッピータイム」(外遊びの日の位置づけの継続充実と遊びの時間の確保	子どもと一緒に外遊びを楽しんだり、子どもが外遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 前期、ハッピータイムでの遊びに困る児童の姿が見られたが、教職員が児童の遊びを見守り、声掛けをしたり、一緒に遊んだりするようにした。遊びに困る児童の姿は減り、それぞれに思い思いの遊びを楽しむ姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ハッピータイムの30分間存分に遊びこめるよう、外遊びを含めたかわり遊びを推奨し、教師も児童と一緒に遊んで楽しむようにしていく。
学校経営 との連携 保護者地域	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	<ul style="list-style-type: none"> 週1度のHPの更新を行った学校・学年(学級)だよりを定期的に発行した。学校だよりには、地域にも回覧した。 学級での様子についてもっと発信してほしいという保護者の声があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、HPの更新、学校・学年(学級)だよりにより児童の様子をお知らせしていく。 コロナが収束思想であるので、来年度は、学級懇談会、保護者に向けての 校長講話等をおこない、学校・児童の様子について発信しまた、学校開放を行っていく。
	P T A ・ ボ ラ ン テ ィ ア と の 連 携	P T A や ボ ラ ン テ ィ ア と の 連 携 を 十 分 行 っ て い る 。	<ul style="list-style-type: none"> 2年ぶりに「親子チャレンジ」「北小まつり」を行う等、連携して行事の企画、運営を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き「親子チャレンジ」「北小まつり」「PTAC作業」等PTAC行事に向けて連携と協力をしていく。
	一人一人に寄り添った支援	全職員で児童を支え、一人一人に寄り添った支援をおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童を支えるために、個別支援、支援会議、保護者への連絡等を担任一人ではなく、複数の職員でおこなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教科担任制・コース別学習の導入により、複数の教職員で子どもたちを見ていくことをする。 来年度は、個別懇談会の回数を増やし、児童一人一人についての育ちを保護者とともに見守っていく。(4月 希望性個別懇談 7月 全校個別懇談 12月 希望性個別懇談)